資料－5

四国の水問題に関する中間とりまとめの骨子目次（素案）

「中間とりまとめ」の内容

はじめに

○ 気候変動による洪水・渇水のリスクの増大に対応するため、吉野川水系等の治水、利水環境の水問題について総合的に研究し、水問題の解決に向けた今後の方向性を示す。

1．四国地方の特性と環境の変化

1．1　四国の自然的特性と吉野川との関わり
(1) 四国の自然特性
(2) 吉野川との関わり

1．2　水問題を取り巻く環境の変化
(1) 最近の気象状況の変化
(2) 社会条件の変化

2．吉野川水系等の水事情

2．1　治水安全度の向上

(現状と課題)
(1) 早明浦ダム洪水調節容量の不足
(2) 低い吉野川の堤防整備率

(方向性)
(1) ダムの洪水調節機能の向上
(2) ハード・ソフト対策による治水安全度向上

2．2　利水安全度の向上

(現状と課題)
(1) 吉野川水系の水利用
(2) 利水安全度の低下

(方向性)
(1) 水利用の検証と効率的な水利用
(2) 目標利水安全度の回復と向上

2．3　環境の改善

(現状と課題)
(1) ダム下流の河川環境の悪化
(2) 地球温暖化対策

(方向性)
(1) ダム下流の河川環境の改善
(2) 良好な水質の確保
(3) 水力発電の有効利用

2．4　水源地域の活性化

(現状と課題)
(1) 水源地域の活力低下

(方向性)
(1) 水源地域の活性化

2．5　節水型社会の構築

(現状と課題)
(1) 渇水に弱い社会基盤

(方向性)
(1) 渇水に強い社会システムの構築
(2) 非常用緊急水源の確保

3．水問題の解決に向けた視点

水問題は四国全体の課題であり、「四国は一つ」の意識を共有し、総合的・広域的観点から水問題の解決に向け取り組むべき。
(1) 情報の共有
(2) 取り組みの評価
(3) 交流と連携

継続して検討すべき内容

水問題解決の実現に向けて

水問題の解決については、関係機関の相互理解のもと連携し取り組む必要があり、今後、施策や実施主体や施策の優先度等の考え方について検討する必要がある。

○今後の検討内容　　施策、実施主体、優先度　　等

論点との関係

- 四国地方に関する現状認識
- 治　水
- 利　水
- 環　境
- 水源地域
- 節水型社会
- 全　般
- 広　報
- 全　般

四国水問題研究会　研究資料集

(研究発表資料)
①水問題における地域社会・経済構造を踏まえた経営システムの構築（那須委員）
②森林の水源涵養機能とその限界について（端野委員）
③吉野川の治水と利水、四国三郎ひとくち知識（三井委員）
④吉野川上下流連携に向けた取り組み（板東委員）
⑤我々の水環境と知恵　～65億人と水問題のエコロジカルな解決～　（望月委員）
⑥河川法の仕組みと河川行政　（七戸委員）
⑦四国の一級水系における水事情　（鈴木委員）

(情報提供資料)
①四国の水事情の現状について（整備局）
②吉野川水系に係る水問題について（整備局）
　～現状と課題の再認識と情報提供～
③吉野川水系の水利用と徳島県（徳島県）
④香川県の水事情（香川県）
⑤愛媛県の水事情（愛媛県）
⑥吉野川水源地域の現状と課題（高知県）